

京都府久御山町 「地域連携サポートプラン」

提 案 書



平成31年1月

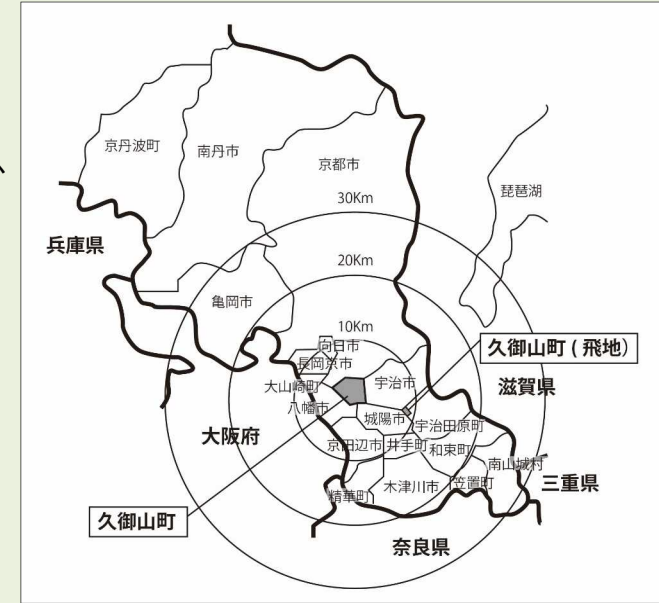
国土交通省  
近畿運輸局  
近畿運輸局京都運輸支局

# 京都府久御山町の概要、公共交通に関する主な取組

## 町の概要

### 概況

- 久御山町は、京都府の南部、京都市中心部から南へ約15kmに位置し、北は京都市伏見区、東は宇治市、南は城陽市、南西は八幡市に隣接している。
- 町中央部は、工業地域・工業専用地域となっており、約1,600もの事業所が立ち並ぶ地域、町西部は、農業基盤が整備された地域、町東部は、市街地が形成され、住宅地が立ち並ぶ地域、町北部は、巨椋池干拓田が広がった地域となっている。
- 町内には、鉄道駅はないものの、国道1号、国道24号に加え、近年は久御山ジャンクションを中心に第二京阪道路や京滋バイパス（京都縦貫自動車道）、国道478号などの大型道路が開通して、京都・大阪・奈良・滋賀等を結ぶ道路交通ネットワークがより一層充実し、恵まれた道路環境となっている。
- 人口は1985年の19千人をピークに減少に転じ、近年は16千人前後を推移しており、高齢化率は約29.5%となっている。（平成27年10月1日現在）
- 府内屈指の事業所集積を背景に、通勤・通学による流入人口が流出人口を大きく上回り、昼間人口は夜間人口の約1.75倍（約28千人）となっている。
- 町北部の東一口モタレ地区は産業活用促進エリアとして位置づけられており、2019年開業に向けて、大規模な物流施設の建設が進んでいる。
- 町東部の産業立地促進ゾーン及び住街区促進ゾーンには、将来、企業の誘致及び住宅の整備等を検討している。



人口：16千人 面積：13.86km<sup>2</sup>

## 公共交通に関する主な取組

### ◆基本方針・計画・体制

平成21年	久御山町地域公共交通会議設置
平成28年	久御山町総合戦略
〃	久御山町第5次総合計画
平成29年	久御山町都市計画マスタープラン（改訂版）
〃	久御山町地域公共交通協議会設置
平成31年	地域公共交通網形成計画策定（予定）

### ◆取組

平成16年	のってこバス運行開始
平成22年	まちの駅「クロスピアくみやま」を整備
平成27年	のってこバス廃止
〃	のってこタクシー運行開始
平成30年	京都京阪バス（株）新規バス路線運行開始（クロスピアくみやま～JR松井山手駅）

## 公共交通の現況

### ① 鉄道・路線バス

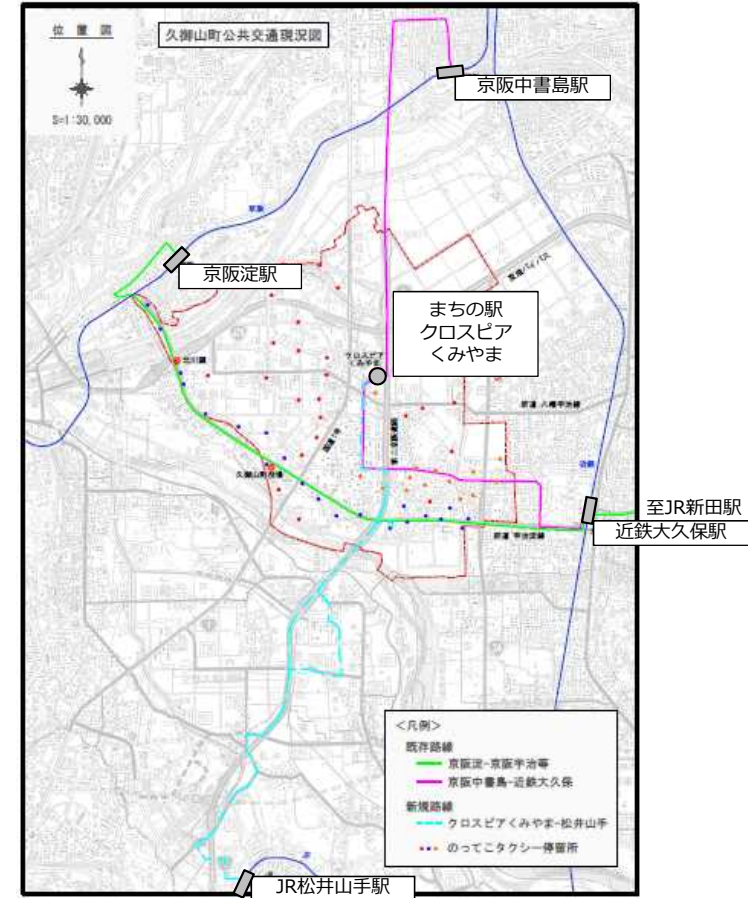
- 町内に鉄道駅はなく、最寄駅は、京阪本線の淀駅及び中書島駅（京都市）、近鉄京都線の大久保駅（宇治市）、JR奈良線の新田駅（宇治市）、JR片町線の松井山手駅（京田辺市）
- 路線バス（運行事業者：京都京阪バス(株)）が町内で3系統運行しており、町内と鉄道駅を結ぶ重要な交通手段
- 町内の交通結節点として、まちの駅「クロスピアくみやま」を平成22年に整備
- 平成30年3月からクロスピアくみやま～JR松井山手駅を結ぶバス路線が運行を開始し、町から年間300万円の運行費補助を行っているが、当初予想より利用が低迷

### ② デマンド型乗合タクシー『のってこタクシー』（運行事業者：加茂タクシー(株)）

- 路線バスを補完する役割として、平成27年12月より住民を対象に運行を開始
- 事前に利用登録を行い、1時間前までに電話予約が必要
- 年中無休、運行時間は8:00～17:00台
- 町内60箇所の停留所間を移動可能であるが、移動ルートが路線バス沿いの場合は、制限あり
- 運賃は、大人300円、小人200円（利用人数によって、料金に変更あり）

### ③ 送迎サービス等

- 久御山町社会福祉協議会が、ささえ愛サービス（福祉有償運送）及び買い物送迎サービス（毎月第2金曜日イオン久御山店までの往復）を実施
- 久御山南病院が、町内を巡回する無料の病院送迎バスを運行
- 京都岡本記念病院が、病院と近鉄大久保駅及び近鉄小倉駅を結ぶ無料の病院送迎バスを運行



#### <主な交通モード>

**鉄道**・・・なし（町外に京阪淀駅、京阪中書島駅、近鉄大久保駅、JR新田駅、JR松井山手駅）

**民間バス路線**・・・京都京阪バス(株)：3系統  
**デマンド型乗合タクシー**・・・のってこタクシー

## 課題

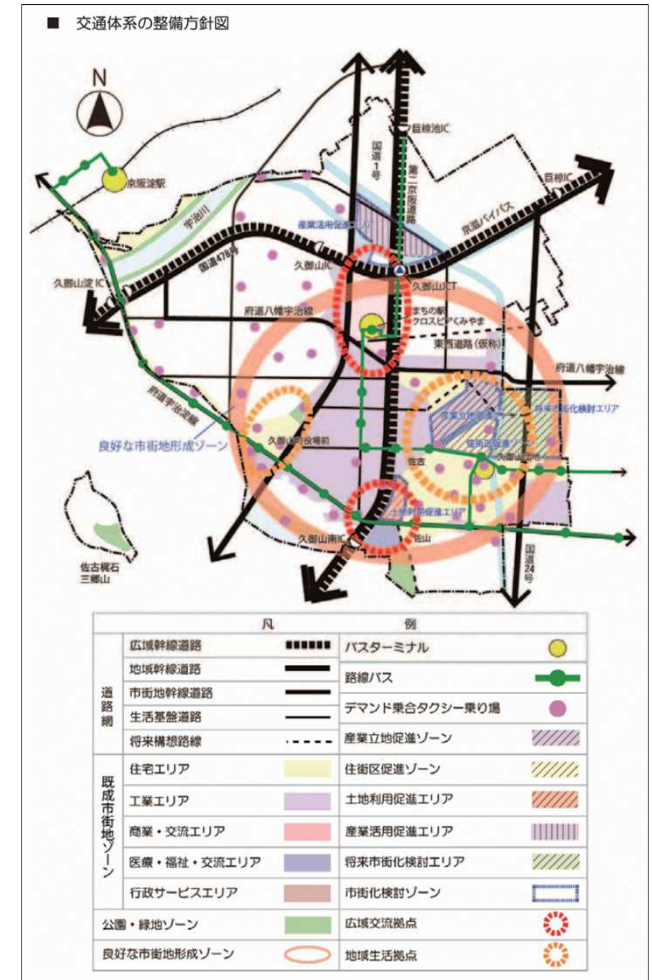
- ① 「まちづくり」の方向性と整合性がとれた地域公共交通ネットワークの再構築
- ② 新規バス路線「クロスピアくみやま～JR松井山手駅」の利活用促進
- ③ 住民・町内企業が公共交通維持・活性化に関わる仕組みの構築

# 課題①について（京都府久御山町）

## 課題 ①

### 「まちづくり」の方向性と整合性がとれた地域公共交通ネットワークの再構築

- 久御山町第5次総合計画では、公共交通に係る基本方針について「地域住民の移動手段の確保と公共交通不便地域の解消に努め、合理的・効率的な地域公共交通ネットワークの形成を推進します。」「地域住民の通勤・通学、町内企業の就業者の公共交通である路線バスの利便性向上に努めます。」と記載されている。
- 久御山町都市計画マスタープランでは、公共交通に係る基本方針について「誰もが自由に移動できる良好な公共交通環境の整備を推進します。」と記載されている。
- 町内に鉄道駅がなく、町外の鉄道駅と町を結ぶ広域的なバス路線が重要な公共交通となっており、町内の交通結節点として、まちの駅「クロスピアくみやま」が位置づけられている。
- 町北部の東一口モタレ地区は産業活用促進エリアとして位置づけられており、2019年開業に向けて、大規模な物流施設の建設が進んでいる。
- 町東部の産業立地促進ゾーン及び住街区促進ゾーンには、将来、企業の誘致及び住宅の整備等を検討している。



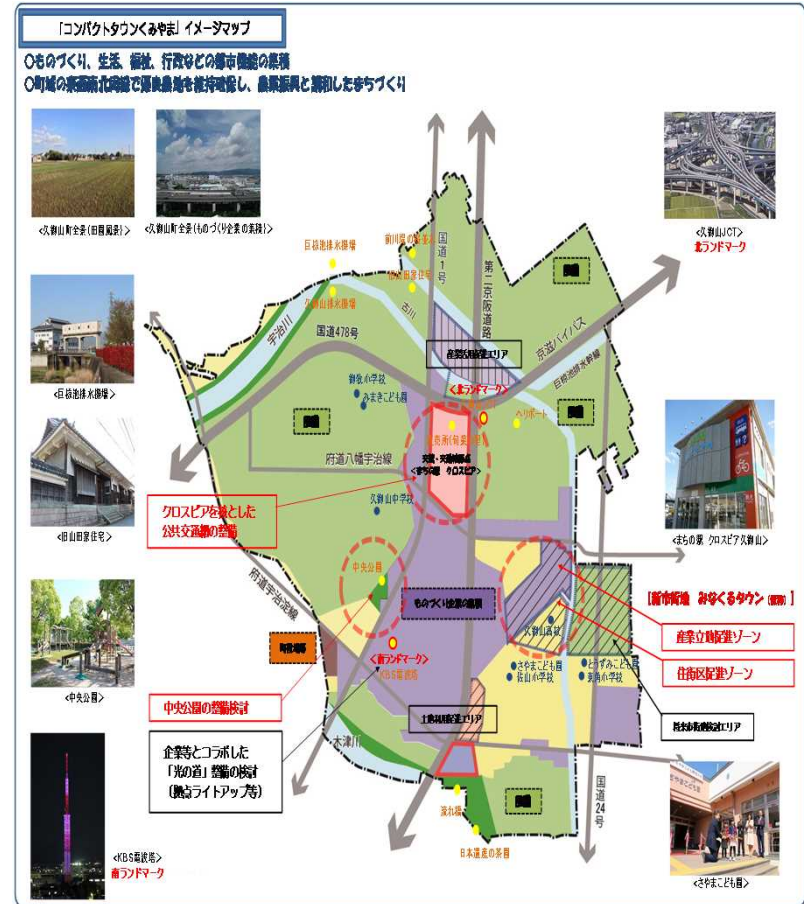
▲交通体系の整備方針図  
(久御山町都市計画マスタープランより)

# 課題①解決に関する提案（京都府久御山町）

## 課題①への提案

### 地域公共交通網形成計画の策定

- 平成30年度末に策定予定である網形成計画について、下記の点に留意し、策定を進めることが望ましい。
- 「まちづくり」の観点から、第5次総合計画、都市計画マスタープラン等の関連計画と整合を図る必要がある。特に、**企業や商業施設の誘致、住宅の整備、道路の整備等の変化に応じたバス路線の見直し**により、町内の円滑なバス運行を確保することが重要である。具体的には、
  - ≫ 地域公共交通網形成計画の策定にあたっては、**産業・観光・まちづくり**等関連する**地域戦略**との**整合**を図るとともに、**教育・福祉**等相互に補完する政策分野とも**連携**し、検討に当たっては、関係する**役場内の部局の参画**を求めることが適当である。
  - ≫ 今後、企業や商業施設の進出がある場合、公共交通を利用した通勤を促進するためにも**企業や商業施設**との**連携**により、**バス路線の見直し**、**エコ通勤の推進**に努めることも重要である。
  - ≫ さらに、交通結節点である**まちの駅クロスピアくみやま**の機能や魅力を向上させるためにも、①**バスロケ設置**等のハード面の整備、②**バス移動案内サービス**の充実、③**パークアンドライド**の実施、④**京阪淀駅方面への移動手手段の検討**等、様々な施策に取り組むことも効果的である。
- 久御山町として、**目指すべき地域公共交通の将来像**や交通事業者・住民をはじめとする**各関係者の役割**を**明確**にし、**丁寧な協議**を行う必要がある。
- 公共交通に対する**行政・住民・事業所**の**意識向上**、醸成(**モビリティマネジメント**)も必要である。



▲「コンパクトタウンくみやま」イメージマップ

### 近隣自治体との連携

- 町内と複数の町外鉄道駅とを結ぶ広域的なバス路線が多く、**近隣自治体との連携**は必須である。近隣自治体と連携し、**利用者の利便性**に考慮した**交通ネットワーク**を**再構築**するとともに、**エコ通勤**、**利用促進**、**モビリティマネジメント**等に**協力して取り組む**ことにより、双方自治体が抱える公共交通に関する課題の解決や新規利用者の発掘につなげることが重要である。

# 課題②について（京都府久御山町）

## 課題 ②

### 新規バス路線「クロスピアくみやま～J R松井山手駅」の利活用促進

- 平成30年3月17日から運行開始した「まちの駅クロスピアくみやま」（久御山町）とJR片町線の「松井山手駅」（京田辺市）を結ぶ新規バス路線は、町の交流施設「まちの駅クロスピアくみやま」をハブとして東西南北に伸びる充実した路線バス網づくりと、町中央部に多数立地する事業所の雇用確保を見据え、京都京阪バス(株)と久御山町が協議を重ねスタートした。
- 久御山町から南方面の鉄道駅を結ぶ初めてのバス路線であり、通勤の利便性向上による町内企業の雇用拡大や、通学・通院・買い物の利便性向上など住民生活への波及効果が期待されている。
- イオンモール久御山が最寄りにある「まちの駅クロスピアくみやま」を起点として、運行経路は、主に第二京阪道路の側道を利用し、経路上の停留所には久御山町内の久御山工業団地、京都岡本記念病院、八幡市内の上津屋工業団地、京田辺市内の高速京田辺前、松井山手駅等がある。
- 当該バス路線には、町から年間300万円の運行費補助を行っているが、運行開始から半年を経過した現在も、乗車人員は当初見込みの3分の1程度と、利用が低迷している。



▲運行経路図「クロスピアくみやま～J R松井山手駅」

# 課題②解決に関する提案（京都府久御山町）

## 課題②への提案

### 路線・ダイヤの見直し

- **バス利用者ニーズの把握**に努め、ニーズに合ったバス路線を検討する必要がある。
- **沿線事業所に従業員が利用しやすいバスの時刻等のアンケート調査**も併せて行い、**通勤利便性の高いダイヤ**等を京都京阪バス(株)とともに検討することも重要である。
- 現在、**朝の便**は、まちの駅クロスピアくみやまからJR松井山手駅までを回送便として運行しているが、これを営業便として運行し、**JR松井山手駅までの直行便**とすれば、町から当該バス路線を利用し、JR片町線を通勤・通学路線として利用する住民が出てくる可能性があり、検討に値する。
- 将来的には、まちの駅クロスピアくみやまから、**京阪淀駅までの延伸**を図ることも検討に値する。延伸することができれば、町西部の交通空白地域である御牧地区の利便性向上にもつながる。延伸の実現に向けては、住民や交通事業者、関係自治体等との綿密な協議が必要である。

### 沿線事業所・店舗・商業施設・自治体・交通事業者との連携

- **沿線事業所にバス利用促進**を呼びかけ、**エコ通勤を推進**する必要がある。京都京阪バス(株)がサービス提供する「ICポイントサービス」「環境定期券制度」「バスナビ」等を、京都京阪バス(株)と連携して積極的にPRしていくと効果的である。
- **沿線事業所・店舗・商業施設のHPアクセス案内**等に、当該**バス路線を利用したアクセス方法を掲載**してもらう必要がある。
- 住民や沿線事業所に当該バス路線の経路等を詳しく説明し、当該**バス路線の便利な使い方等を周知**する必要がある。  
(例)・高速京田辺前で高速バスに乗り換え、USJ・関西空港・東京方面へ移動可。  
・松井山手駅でJR片町線に乗り換え、梅田(北新地)方面へ乗り換えなしで移動可。  
・朝夕は松井山手駅始発列車で座って通勤・通学可。
- **沿線店舗や商業施設と連携して、スタンプラリーやバス利用者への割引等の取り組み**を行うことも、利用促進には効果的である。
- **沿線自治体(八幡市・京田辺市)、JR西日本とも連携し、当該バス路線の周知・利用促進等を協力**して取り組むことができれば、さらに効果的である。

**従業員のみなさまの移動手段に関するアンケート調査**

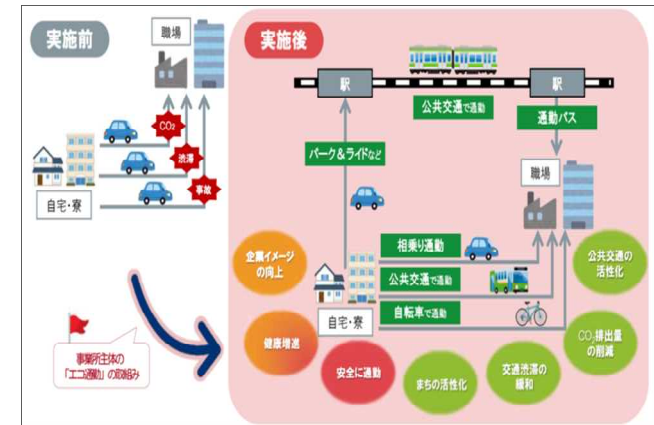
質問1. まず、貴事業所およびご記入者について、お教えてください。

事業所の名称			
事業所所在地			
記入者	所属:	電話:	
	役職:	Email:	
	氏名(よみがな):	FAX:	
業種	<input type="checkbox"/> 農林水産業	<input type="checkbox"/> 建設業	<input type="checkbox"/> 製造業
	<input type="checkbox"/> 電気ガス供給水道業	<input type="checkbox"/> 運輸情報通信業	<input type="checkbox"/> サービス業
勤務形態	<input type="checkbox"/> 金融保険不動産業	<input type="checkbox"/> 卸売小売業	<input type="checkbox"/> その他
	<input type="checkbox"/> 交代なし	<input type="checkbox"/> 2交代制	<input type="checkbox"/> 3交代制

○ 勤務時間帯と時間帯別の従業員数を教えてください。  
※出勤・退勤時の人数を知るためにお聞きしています。

	勤務時間帯	勤務時間帯別従業員数
交代なし(①に記入)	① : ~ :	約 名
2交代制(①、②に記入)	② : ~ :	約 名
3交代制(①、②、③に記入)	③ : ~ :	約 名
		計 約 名

▲事業所従業員向けアンケート調査

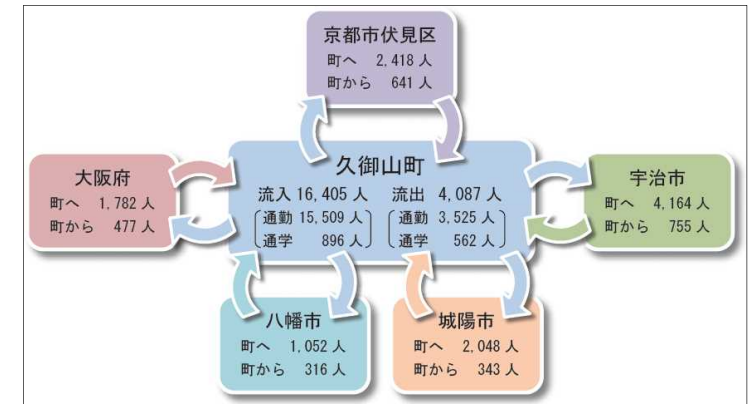


▲事業所主体の「エコ通勤」の取り組み (国土交通省HPより)

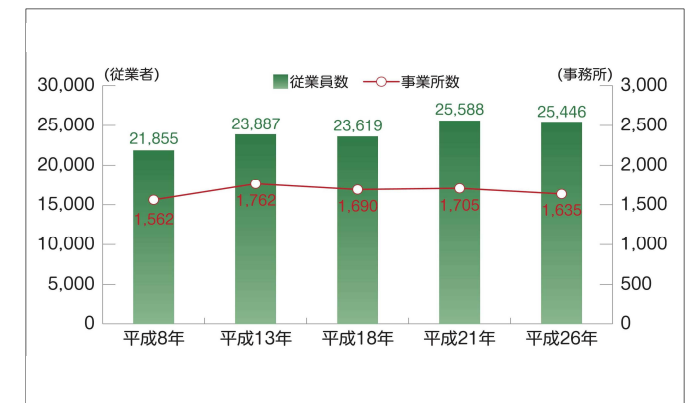
## 課題 ③

## 住民・町内企業が公共交通維持・活性化に関わる仕組みの構築

- 久御山町内には鉄道駅がなく、町外の鉄道駅と町を結ぶ3系統の路線バスが重要な公共交通となっている。
- 町の人口は、1985年の19千人をピークに減少に転じ、近年は16千人前後を推移しているが、今後も人口減少が続く見込みとなっている。
- 府内屈指の事業所集積を背景に、通勤・通学による流入人口が流出人口を大きく上回り、昼間人口は夜間人口の約1.75倍(約28千人)となっている。
- 町北部の東一口モタレ地区には、大規模な物流施設の建設が進行中であり、今後も、産業立地促進ゾーン及び住街区促進ゾーンに、企業の誘致及び住宅の整備等を検討している。
- 住民の移動手段、事業所に勤務する従業員の移動手段として、公共交通の利用促進を図る必要があるが、現状のバス路線や接続する鉄道の情報等の周知が十分に行われていない。



▲久御山町と近隣自治体との通勤・通学流動 (国勢調査より)



▲久御山町内の事業所・従業員数の推移 (事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査より)



## 課題③への提案

## 公共交通をもっと知ってもらう

- 町内を走る路線バスが京阪電車「淀駅」「中書島駅」、近鉄電車「大久保駅」、JR西日本「松井山手駅」「新田駅」まで運行している現状を知ってもらうためにも、鉄道、バスの運行経路・ダイヤ等の入った**公共交通マップの作成**が望ましい。さらに、町内のバス停とそこから離れた町内各地を移動する手段であるのってこタクシーについてもわかりやすく解説することが望ましい。
- 公共交通利用に関する「わからない」「知らない」を解消し、府道宇治淀線の慢性的な渋滞緩和及び路線バスの定時運行を図るためにも、自家用車から公共交通への利用転換を目的とした公共交通マップを**住民、学校、事業所等へ配布**し、利用者増に繋げることが重要である。

【他自治体の地域活動団体による公共交通マップ例】

- ・ かさいおでかけナビ……路線バス・コミバス・鉄道の運行ダイヤを案内  
バスの乗り方、主なバス乗り場、乗車制度、大阪・神戸等への乗り継ぎ案内（発行：加西市公共交通活性化協議会）

## 公共交通にもっと乗ってもらう

- 住民や利用者がバス路線の維持・活性化について自ら考える機会を設けるなど、**「マイバス」意識の醸成**を図ることが重要である。
  - 例えば、まちづくり・地域活動の一環として、学校や各自治会、事業所と協働し、学生、住民、事業所従業員と一緒に公共交通活性化を考える**ワークショップ**や**シンポジウム**などを継続的に**開催**することは効果的である。
  - 交通事業者と連携し、幅広い世代を対象とする「バス・のってこタクシーの**乗り方教室**」をはじめとする**体験イベント型施策**の実施も効果的である。
- **沿線事業所にバス利用促進**を呼びかけ、**エコ通勤を推進**する必要がある。
- **町主催**の「ものづくり探検バスツアー」や「ものづくり企業説明会」等の**企業紹介イベント**で、**公共交通を利用した企業へのアクセス案内**、**エコ通勤**等を**説明**し、採用段階から公共交通の利用を意識させることも重要である。
- バス停へのベンチ・上屋設置等の**バス待合環境の整備**についても、町が積極的に関与して取り組み、バスを快適に利用できる環境づくりも重要である。



▲かさいおでかけナビ  
(加西市HPより)



▲ワークショップの開催

# 協定締結から提案に至るまでの間の成果（京都府久御山町）

平成30年 7月27日  
地域連携サポートプラン協定締結

平成30年 8月 3日  
久御山町サポートプラン打ち合わせ

平成30年10月13日  
久御山町まちづくりシンポジウム

平成30年10月17日  
久御山町地域公共交通ワークショップ

平成30年10月19日  
京都京阪バス（株）意見交換

平成30年10月30日  
久御山町サポートプラン打ち合わせ

平成30年11月28日  
久御山町地域公共交通協議会（第2回）

平成30年12月28日  
久御山町サポートプラン打ち合わせ

平成31年 1月23日  
地域連携サポートプラン提案書交付



▲サポートプラン協定締結式



▲久御山町まちづくりシンポジウム



▲サポートプラン打ち合わせ